

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991600016		
法人名	社会福祉法人関記念栃の木会		
事業所名	認知症高齢者グループホームいしばし		
所在地	栃木県下野市上古山569-1		
自己評価作成日	平成29年9月12日	評価結果市町村受理日	平成29年12月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成29年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の性格や習慣を理解して共同生活の中、トラブルを回避出来るように事前に案内する等の配慮しながら対応に当たっている。又、接遇は全ての事に反映される事から毎月、目標を設定して利用者中心の生活支援に努めている。限られた環境の中で生活が一元化しないようあらゆる場面で地域との交流が図れるよう勤めている。御家族様には日々の生活の様子を知っていただきたく、毎月「生活のこま」「いしばし通信」等 送付して、日頃の状態を知っていただく事で遠方で在っても安心していただけるように勤めている。又近隣に法人の施設がある事からいろいろな場面で相談、支援を受けることが出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、下野市郊外の閑静な場所にあり、利用者が静かに落ち着いて暮らせる環境が整っている。リビングは明るくゆとりのある広さで整理整頓され、居室は日当たりが良く、床暖房やエアコン等を備えるなど、利用者が快適に過ごせるよう配慮している。近くには同法人が運営するデイサービスセンターや特別養護老人ホームがあり、業務上の連携を図っている。法人の基本理念と事業所の理念のもと、利用者の声を良く聞き、高齢者を敬い、優しい心と笑顔で寄り添う介護の実践に努めている。家族に対しては利用者の生活状況を書類で毎月報告し、意見や要望等の把握に努め、「良く聞き、良く伝える」ことを積極的に実践している。地域からも良く理解されており、近隣の人から花や野菜の差し入れがあったり、主催行事に地域の人達の参加があるなど、日頃から地域交流に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の3つの理念とグループホームの2つのケアの理念を事業所内に掲示して毎日朝のミーティング時唱和して御利用者の支援に努めている。又、玄関に掲示して訪れる方への周知を図っている。	ウサギの耳に例えた利用者の声を傾聴する旨の事業所の理念と法人の基本理念を、職員は良く理解し、共有して実践につなげている。理念の実践につなげるために「介護接遇マニュアル」を活用し、日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して広報誌や回覧板を通し地域の情報を御利用者と共有している。又、自治会の行事お神輿や、育成会廃品回収に協力している。市や学校行事の招待、見学に参加。近隣散策等でも声を掛けていただき交流している。	自治会や地域の諸行事に参加したり、小学校との交流や種々のボランティアの受け入れも積極的に行っている。近隣の人から花や野菜等の差し入れがあったり、主催行事に地域の人々の参加があるなど、日頃から地域との良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学の受け入れや相談等、認知症の人の理解や支援の方法等アドバイスしたり、施設紹介等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告内容から夏まつりへの企画を頂いたり、ボランティアの紹介を頂いたりすることがある。又、以前には地元消防団との連携を進められ毎年総合避難訓練時協力を得るようになった。	会議の参加者はほぼ固定化し、経歴や職種についても多彩であり充実している。会議では利用者の状況や行事及び活動の報告、今後の予定等の説明のほか、意見交換を行い、防災対策や行事に関するアイデア等をサービス向上に活かしている。	より多くの家族が参加しやすい工夫及び現在の参加メンバーのほかに警察・消防・保健医療・学識経験者等、多方面からの参加を試み、幅広い意見や情報を得てサービス向上に活かす取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では高齢福祉課や包括支援センターの職員の参加をいただき、施設の利用状況や利用者へのサービス内容など報告している。	運営推進会議に市担当者と地域包括支援センター職員の参加があり、事業所の状況やケアサービスについて報告している。市役所へ出向いた際や折に触れ情報交換や指導を受け、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない為に内部研修で対応の困難事例検討や利用者にも与える影響等理解を深めている。特に言葉使いについては主体はどこにあるか考えながらケアに努めている。玄関の施錠については家族に意見を聞き、御利用者の安全第一と考え時にはロックしている。	内部研修やマニュアルの活用等により、身体拘束をしないケアについて周知を図り、職員は良く理解している。言葉による拘束についても「禁句集」により周知徹底を図っている。日中における玄関の施錠はしないこととしているが、安全面から施錠する場合もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月接遇改善委員会で気になる職員の言動や対応の仕方、家族からの意見等各施設のリーダーが話し合い、施設内での虐待や対応が見逃ごされないように努めている。又、禁句集を使い自らに注意を払っている。		

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用されている方はいませんが、必要があれば制度の利用を勧めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容については納得いただけるまで説明、確認していただいている。解約時はその理由や内容が納得が得られるよう説明している。一部改正時は案内文を郵送、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービスの評価については定期的に本人、家族より満足度を確認している。面会簿のところにアンケート用紙を設置して自由な意見をいただけるよう配慮している。	サービス評価を本人及び家族に説明し、満足度等を確認し介護計画作成に反映させている。面会時や主催行事の際に意見・要望を聞くほか、家族アンケートを実施し、意見・要望を把握し、運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ミーティング時意見交換を行っている。その内容については会議録や連絡ノートを活用して全職員に周知している。	日常の業務の中での気付き等はその都度、また、朝のミーティングや職員会議において職員の意見や提案を聞いている。各委員会活動等の場でも意見が出され、これらを全職員に周知の上運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時には個々の契約内容や意思の確認を行ない書類を交わしている。随時勤務形態の配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会があれば外部研修会への参加を促し、スキルアップにつなげている。研修会への参加は復命書や職員会議などで参加されない職員への波及を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の行事や研修会への参加など常に交流を図っている。又、相互のイベントを通し、他の施設を知る良い機会となっている。		

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談受付をしてから入所まで継続的な状況確認の連絡を行い、本人、家族の状況を把握している。又、担当ケアマネジャーの意見等参考にさせていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の入居案内の説明や見学等ご本人との相性、不安等納得できるまで見極めさせていただく。又、施設で出来ること出来ないことを丁寧に説明させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接、聞き取り調査にて現状と今後の支援の方向性について確認し、適切な支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する者同士互いに助け合い、声を掛け合う関係作りを行っている。新聞の購読やテラス散歩等気の合うもの同士が声を掛け合っている。入浴順番の声掛けなど自主的に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の一こまやいしばし通信を毎月送付して御利用者の様子をお知らせしている。状態に変化が見られる時も連絡して緊急自体に備えていただくように日頃から連絡を取るようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	短歌を趣味としている御利用者は会に出席されなくても郵送で作品を出品添削していただいて、展覧会にも出している。馴染みの洋服屋さんや美容院へ外出支援し、又地元のお祭りでも多くの知り合いにお会いして声をかけていただいている。	家族や友人の来訪や、デイサービスで馴染みとなった人達との交流を大切にし、馴染みの洋服店や美容院等に出かけるなど、関係継続に努めている。お祭りなど地域の行事に参加し、知人等と旧交を深めることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のリハビリやレクリエーション、行事の中からそれぞれの特性を考慮して特性が生かせるように配慮している。合唱では合わせて歌う。ゲームではルールを守る。歩行練習では譲り合う等皆が楽しく過ごせる様に支援している。		

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先等に情報提供を行い、住み替え後ストレスが少なく済むように支援している。御家族にも納得されるまで時間をかけて対応している。転居後も機会があれば面会や御様子を伺う機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1での会話の中から希望や意向の把握に努めている。息子に合いたいや知り合いに合いたいなどさまざまなので家族に相談したり、職員が対応したりし可能な限り実現の方向で検討している。又、毎月の行事に反映などしている。	日頃から利用者の独り言や呟きを聞き逃さず、理念にあるようにウサギの耳で「小さな声」を受け止めるよう心がけている。夜勤時や入浴介助の際に本音が聞けることもあり、趣味の継続や利用者個々の希望に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時本人、家族への聞き取りやプラン作成時趣味や暮らし方について聞き取る等行っている。センター方式暮らし方シートを活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録や温度板、ケアプラン実施記録等参考に日常の過ごし方を把握している。特に入浴時は身体状況や心の内等話して下さるので、職員間で情報共有している。出来ない部分の支援に心掛け、無理強いせず個々の過ごし方を重視している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態の変化に対応して、それぞれの意見を出していただき、少しでも良くなるように試してみる。本人や家族の意向も確認しながら取り入れ作成している。定期的にモニタリング実施している。	家族あてに利用者の状況を毎月報告し、面会時や介護計画の変更時に意向を確認している。定期的にモニタリングを行い、居室担当者からの意見や本人及び家族の意向を取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。見直しは6ヵ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録は日勤帯と夜勤帯を色分けして記入し、特に変化あるときは連絡ノートに記入して朝のミーティングで話し合い、職員間で情報共有している。介護計画見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の状況により通院、薬取り、訪問診療の手配など要望に応じて行っている。又その日の状況で買い物、気分転換散歩、ドライブ、美容院の付き添いなど、突発的なことへの対応も積極的に行っている。		

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に2回傾聴ボランティアの訪問を受け、顔なじみも出来楽しみにしている。月1回の蕎麦会は目の前で見事な腕前で蕎麦を打っていただきこだわりの汁で味わう等月により食べ方を替えながら楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医の受診を支援している。受診困難な方は往診依頼している。往診時は日頃の状態を伝え、相談している。家族様には結果を随時報告している。又受診で家族が伝えにくい細かな情報は事前にAFX等で情報交換に勤めている。	かかりつけ医の受診は、家族の付き添いを基本としているが、緊急時は職員が対応している。受診が困難な場合は家族の依頼により往診している。受診結果等の医療情報は家族・主治医と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回介看護、主任会議において情報交換や適切な対応のアドバイスを受けている。法人内の看護師に常時相談できる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は定期的に状態を確認しながら退院時の受け入れに万全を期するようにしている。退院時のカンファレンスに出席することもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時施設で出来ること出来ないことの説明をさせていただき、重度化した場合は家族様と今後の方向性について話し合い検討している。本人や家族の意向を考慮しながら特養など他の施設への住み替えを検討、支援している。	利用開始時に本人・家族と話し合いを行い、重度化した場合等についての事業所での対応を説明している。重度化した場合は家族の意向を考慮しながら、同法人が運営する特別養護老人ホーム等への入所を勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で緊急時の対応について学んでいる。参加できない職員も資料等で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる場面を想定した避難訓練を毎月実施している。近隣の協力委員を含め通報訓練や職員については召集訓練。又消防署・消防団の協力を得て行う総合訓練、通報訓練等で指導を受けている。	年1回、消防署等の指導の下に総合訓練を実施している。独自に夜間想定を含めた避難訓練と通報訓練を毎月実施し、有事への対応力向上に努めている。地域の協力体制も整っており、5名の協力者には利用者の見守りを依頼している。備蓄の他、様々な備品も整備している。	

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇改善委員会を中心に御利用者の対応について毎月目標を定め、職員は毎日ミーティングで唱和して実践に努めている。全ての生活面で気遣っている。認知症を理解すると共に敬意を持って対応出来るように努めている。	接遇改善委員会を中心に、利用者の対応についての目標を定め、ミーティングで唱和している。接遇研修を実施し、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを傷つけないケアに努めている。個人情報関係書類は事務室で適切に保管・管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をじっくり伺い、否定せず傾聴に努めています。会話の中から真意をくみ取りストレスを抱えないように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の心身の状態に応じてリハビリやレクリエーション参加を促している。ゲームやカラオケ等いくつかの過ごし方を提案し、その日に何を行うか、その日のメンバーや気分を変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備が可能な方は御自分で準備していただいている。出来ない方は一緒に準備して確認しながら行っている。整理整頓が出来るようにタンスにラベルを貼り、収納が出来るようにしている。好みの化粧品やスプレー等使えるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大切に旬の食材を使うようにしている。好き嫌いのある方は代替を提供し、少しでも食べられるよう工夫している。行事には松花堂弁当で見た目の差別化と、特別メニューで提供している。テーブル拭きや食器拭き等個々の出来ることをお願いしている。	利用者の好みや食べやすさに配慮し、職員が調理している。誕生会や敬老会等の行事には「松花堂弁当」を出したり、おせち料理など四季折々の食事は利用者の楽しみとなっている。利用者は食器拭きなど出来る事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調にあわせ食事形態を変えている。毎日の摂取量を確認して健康管理に努めている。お茶を好まない方には好きな飲み物で対応排泄を促している。摂取量の少ない方には栄養食やトロミ等も取り入れ提供する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは習慣になっており、必要に応じて声掛け、見守り、支援させていただく。口腔内のトラブルは受診、訪問診療を受け入れを行っている。リハビリでは健口体操、パタカラ体操等取り入れて、機能低下予防に努めている。		

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活パターンシートから個々の排泄パターンを把握し、排泄行為がスムーズに済まされるよう早めの声掛けや羞恥心に配慮した対応を行っている。後始末が不十分な方には声を掛けさせていただいている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導により自立に向けた支援に努めている。ほとんどの利用者がリハビリパンツを使用しており、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルト、牛乳を提供している。又、乳酸菌の多く含まれるヤクルトの摂取や内服調整、運動。水分補給等で自然な排便を促すように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3回/週の入浴が出来るようにしている。午後入浴の時間を取っているが行事の都合で午前中に入浴する事もある。利用者には確認を取っている。入浴順番や温度等随時確認しながら行っている。	入浴は週3回、午後の時間帯を基本としているが、利用者の希望や体調等により柔軟に対応するよう努めている。浴室で職員との会話を楽しんだり、季節によりゆず湯やバラ湯などを取り入れ、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルに合わせ、自室でもくつろぎ、好きなことが出来るように環境を整えている。昼間は居間で過ごされる方もテレビ、新聞を見たり、運動が出来るようにしている。昼間は長い昼寝をしないように適時声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表にて内容、効用、副作用等確認している。誤配がないように準備する人、与薬する人を替えて再確認している。状態の変化については申し送りや朝のミーティングで報告して、家族や主治医に相談、指示を仰ぐこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の短歌の投稿や文化祭への作品出品。特技を活かし生活用品(チラシのゴミ箱折、はし入れ袋、雑巾縫い)を作ったり、カラオケ、お使い時のドライブの同行等気分転換になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	理髪や買い物等、出来るだけ希望される日に出かけるようにしている。特別な誕生日等希望があれば外出支援を行なっている。遠足等の行く場所については皆さんの意見を反映している。御家族にも参加を促している。	利用者の希望により周辺への散歩や買い物に出かけたり、誕生日の夕食や美容院等への外出も行っている。季節によりお花見に行ったり、観光地等にも出かけたりしている。遠方への外出は利用者の希望を聞き、家族にも参加を依頼して実施している。	

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度のお金を管理している方には紛失には他人に迷惑が掛からないように理解を促している。ほとんどの方が自己管理が不十分な為預かり金として1万円程度の中から職員と共に管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや携帯電話、直通を引かれる方もある。御家族からの贈り物等があった時は御本人から電話をかけられるよう支援している。手紙の郵送の支援など行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節感のある飾りやお花を生け楽しんでいる。床は床暖房を設置している。天窓から差し込む光はホールを明るく照らしてくれる。必要な方はフットマッサージ器等でリラックスできるように配慮している。	玄関フロアや食堂等には飾り物や季節の花を置いて季節感を感じさせている。食堂兼リビングは広くゆとりがあり、天窓からの光で明るく、壁には絵画や作品を飾り、落ち着いた空間となるよう工夫している。フットマッサージやソファを置き、利用者がリラックスできるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが目的にあった過ごし方が出来るように雑誌、新聞、DVD、音楽鑑賞、マッサージなどいろいろなアイテムをそろえ、必要に応じ提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には個々が慣れ親しんだ使いやすいものを準備されている。通年快適に過ごされるようにエアコン、加湿器、温度・湿度計など設置している。携帯電話やポット等取り扱い不十分な部分は声をかけさせていただき支援している。	居室には床暖房・エアコン・ベッド・洗面台・整理ダンス・クローゼットを設置している。テレビや家具類のほか、使い慣れた日用品や小物等を持ち込んでもらい、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を出し、自室の確認が出来るようにしている。食卓にもネームを付け席に付けるようにしている。トイレの案内板をつけ、排泄への自立やダンスにラベルを貼り自己管理を促している。		